



## 「外為短期投資家動向調査」結果

<第86回調査>

2016年07月25日

### 【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

### 【調査実施期間】

2016年07月12日(火)13:00~2016年07月19日(火)13:00  
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

### 【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

### 【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。  
今回の有効回答数は810件。  
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

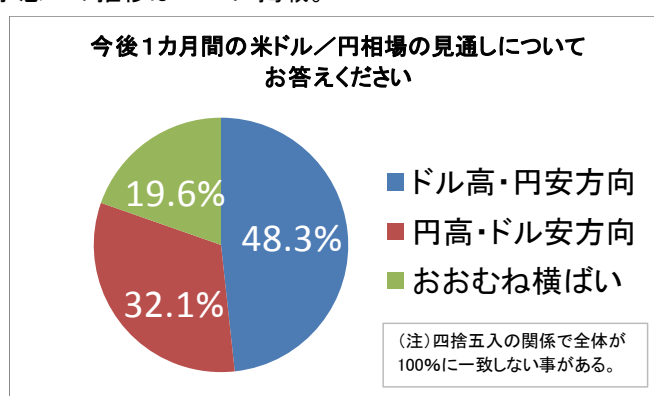
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第86回調査結果略報：見通し反転 ブレグジットで底打ち感か】

### 問1：今後1か月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

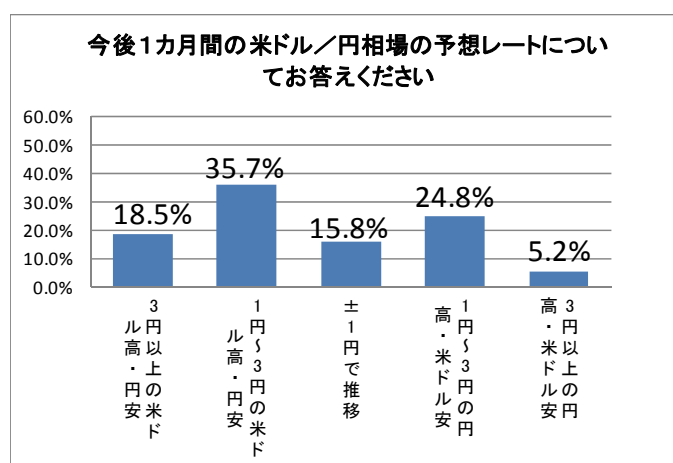
「今後1か月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が48.3%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は32.1%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は+16.2%ポイントとなり、4年7か月ぶりの大幅なマイナスDI(▼33.9%ポイント)を記録した前回から一転してドル高・円安見通しが優勢となった。調査期間中の米ドル/円相場は、102円台から106円台まで上昇しており、6月24日安値98.798円からの戻り局面にあった。英国の欧州連合(EU)離脱決定が、今後の世界経済に及ぼす影響については様々な見方があるが、ひとまずは甚大な危機に発展する可能性は低いとの見方が広がっているようだ。そうした中、個人投資家の米ドル/円相場見通しにも、ひとまずは底打ち感が広がっているようだ。

※過去の米ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



### 問2：今後1か月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1か月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が35.7%と最も多く、「1円～3円の米ドル安・円高」が24.8%と続いた。さらに「3円以上の米ドル高・円安」が18.5%、「±1円で推移」が15.8%と続き、「3円以上の米ドル高・円安」は5.2%に留まった。ヒストグラムの形状は波打ちながらも米ドル高・円安側に傾いており、米ドル強気・弱気の見通しが優勢となった問1の結果と整合的と言える。ただ、中央の「±1円で推移」が低い(割合が少ない)傾向は先月同じであり、相場の安定推移を見込む向きが少ないのが特徴的だ。

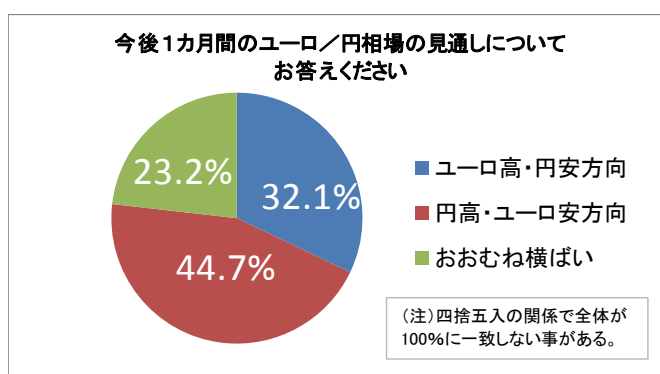


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

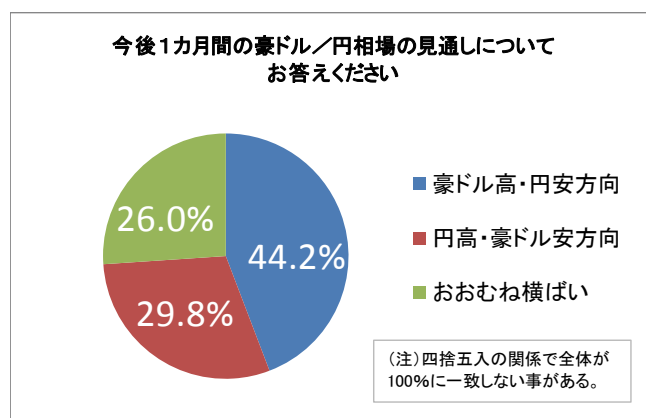
### 問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が32.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が44.7%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は▼12.6%ポイントと、前回調査(▼47.0%ポイント)からマイナス幅が縮小したが、11か月連続のマイナスDIとなった。調査期間中のユーロ/円相場は、113円台から118円台へと上昇するなど堅調推移が目立った。最大で4.5%上昇しており、上昇率は米ドル/円(3.8%)よりも大きかったが、予想DIは米ドル/円と異なりマイナスから抜け出せなかった。ユーロ圏は、英国の欧州連合(EU)離脱の悪影響(経済的にも政治的にも)を受けやすいとの見方が多いため、個人投資家のユーロ相場に対する見通しも弱気に傾きがちなようだ。※過去のユーロ円予想DIの推移はP7-8に掲載。



### 問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が44.2%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は29.8%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+14.4%ポイントとなり、前回の下落予想(▼25.7%ポイント)から、上昇予想に転じた。調査期間中の豪ドル/円相場は、世界的な株高を背景に77円台から81円台まで一時上昇するなど堅調に推移した。英国の欧州連合(EU)離脱や仏ニースのテロ騒動、トルコのクーデター未遂事件などによるリスク回避の動きはいずれも長続きせず、個人投資家の心理面への悪影響も限定的だったと見られる。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。

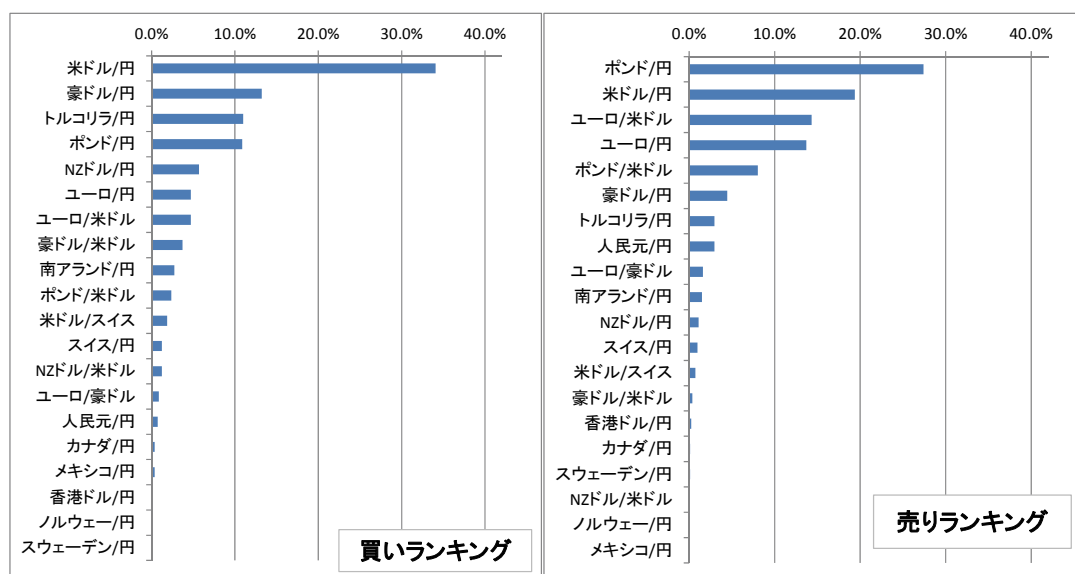


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が34.1%の回答割合を集めて46カ月連続で1位の座をキープ。以下、2位に豪ドル/円(13.2%)が入り前回の4位から復帰、3位トルコリラ/円(11.0%)、4位ポンド/円(10.9%)、5位NZドル/円(5.7%)と続いた。一方、「売り」で注目の通貨ペアは、1位ポンド/円(27.4%)、2位米ドル/円(19.4%)、3位ユーロ/ドル(14.3%)、4位ユーロ/円(13.7%)、5位ポンド/ドル(8.0%)となった。「買い」で注目の3位にトルコリラ/円、4位にポンド/円と政治情勢に不安を抱える国の通貨の対円ペアが上位に入ったのが特徴的だ。トルコリラ/円の人気については、クーデター未遂事件の影響が読み難い。回答にはクーデターが起きた15日以前のものも含まれるが、早々に鎮圧された16日以降の回答も少なくないはずだ。もっとも、前回の調査では13.5%の回答割合を集めて第2位にランクインしていた事を考えれば、悪影響のほうはやや大きかったというべきかもしれない。また、ポンド/円は「買い」で注目の4位に入った半面、「売り」で注目の第1位に輝いている。英国の欧州連合(EU)離脱決定を受けて中長期的なポンドの下落を予想しやすい反面、直近の高値から一時約30円超下落したポンド/円相場には、短期的な強気心理も生じやすいという事ではないだろうか。

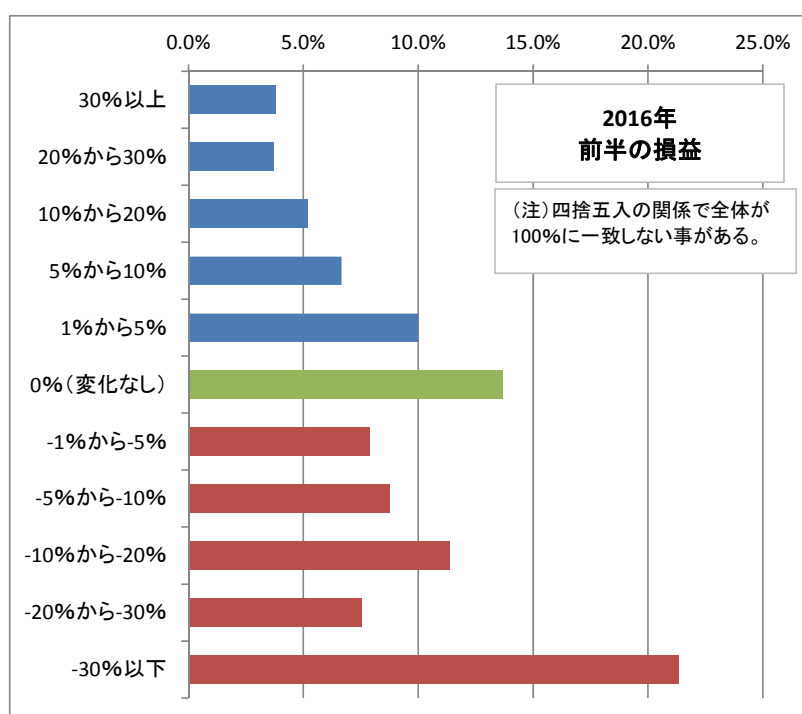


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問6: 2016年1月から6月末までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか。  
(例: 100万円の投資資金が110万円になった場合10%)**

今回の特別質問として、「2016年1月から6月末までの損益状況について、投資資金の何%となっていますか。」と尋ねたところ、「-30%以上」と答えた割合が21.4%に上り最も多かった。以下、「変化なし(13.7%)」、「-10%から20%(11.4%)」、「+1%から5%(10.0%)」と続いた。「利益が出た」投資家の合算割合が29.4%に留まった一方で、「損失が出た」投資家は57.0%と過半数に上った。なお、半年前の調査(2015年下半期の損益)では「利益(42.1%)」と「損失(46.9%)」が拮抗しており、1年前の調査(2015年上半期の損益)では「利益(49.4%)」が「損失(33.4%)」を上回っていた。2016年上半期の為替市場は個人投資家にとって非常に厳しい相場環境となったようだ。損益の要因について自由記述形式で回答を求めたところ、最も多かった「-30%以上」とした向きからは「日銀の緩和見送り」や「英国の欧州連合(EU)離脱」による急激な円高の進行を挙げる声が多く、それとともに「ロスカット(損切り)ができないままに損失が膨らんだ」との回答が目立った。一方、「+10%以上」とした向きからは「年始からの円高の波に乗ることができた」との回答が目立ち、中には「オーバーナイトのポジションを持ち越さないようにして、大きな損失を出さない事を心がけた」との回答もあった。自由回答から浮かび上がったのは、相場の流れに逆らわない事とロスカットをこまめに入れて大きな損失を回避する事が、勝ち組に近付くための重要なポイントになるという事だろう。

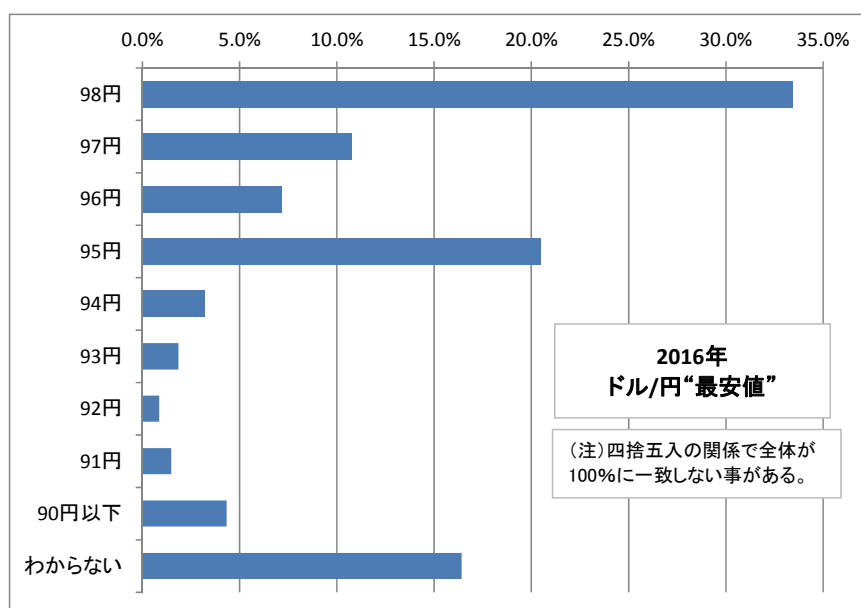


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問7: 2016年を通して、ドル/円“最安値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ)  
またその理由について、コメント欄へお書きください。**

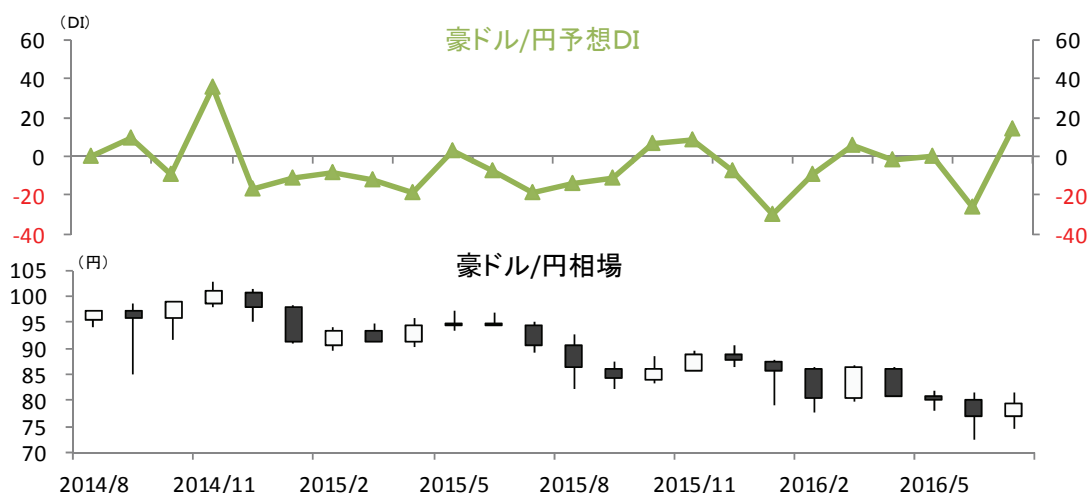
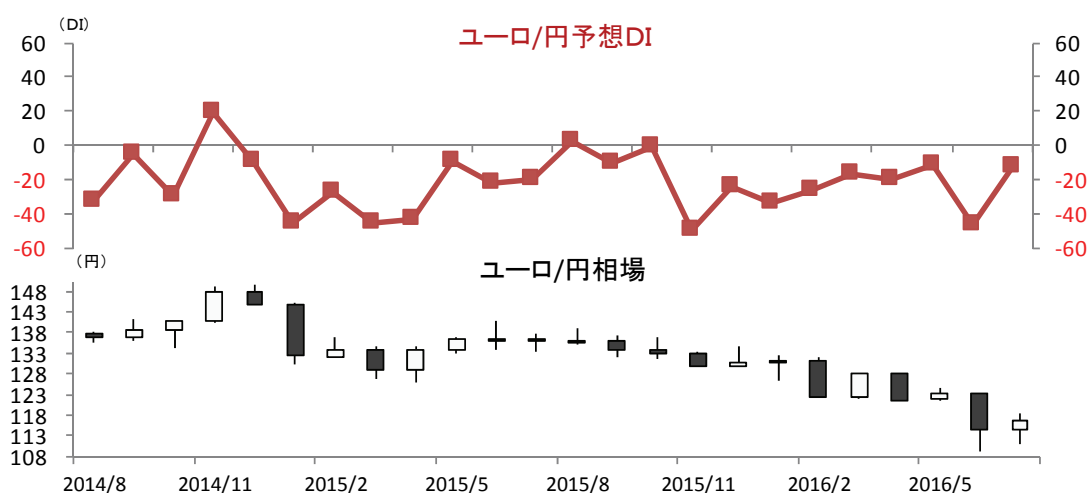
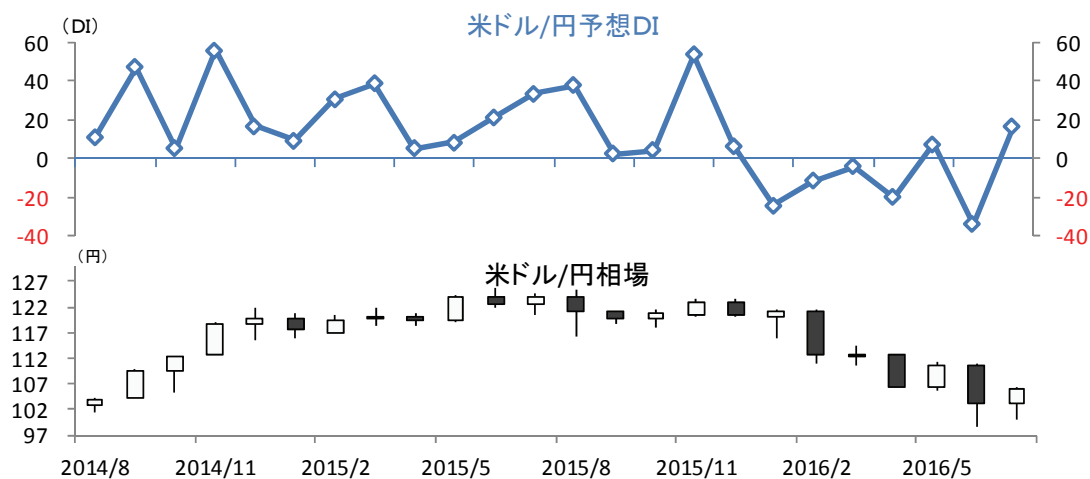
今回のもうひとつの特別質問として、「2016年を通して、ドル/円“最安値”の予想レートをお答えください(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「98円」と答えた向きが33.5%と最も多く、次いで「95円(20.5%)」、「わからない(16.4%)」、「97円(10.7%)」、「96円(7.2%)」と続き、「90円以下」としたのは4.3%どまりであった。調査期間中にドル/円相場が106円台まで反発する場面があったため、やや上方にバイアスがかかっている可能性は否定できないが、個人投資家が総じて底堅い展開を見込んでいる事がわかる。「また、下のコメント欄にその理由をお書きください」としたところ、様々な回答が寄せられた。「95円」から「98円」の最安値を予想した向きの中では「介入」がキーワードであり、「100円以下では日本の円売り介入が意識されやすい」との見方のほか「95円付近まで円売り介入には踏み切れない」との見方もあった。「94円」から「90円」の最安値を予想した向きからは「世界的な政治、経済の不安定さで円に資金が集まる」との見方が多く、具体的には「欧州の経済危機が表面化して円が独歩高になる」との声や「トランプ米大統領の誕生でドル安・円高」との声が聞かれた。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第86回目となりました。調査開始から7年が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2014年	8月	32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1
	9月	64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5
	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0
	11月	70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6
	12月	48.9	32.0	16.9	28.8	38.2	-9.4	26.9	43.4	-16.5
2015年	1月	39.3	29.7	9.6	15.1	60.6	-45.5	26.2	37.5	-11.3
	2月	46.8	16.1	30.7	19.7	47.5	-27.8	26.4	34.8	-8.4
	3月	52.3	13.6	38.7	15.2	60.5	-45.3	21.8	33.9	-12.1
	4月	31.4	26.3	5.1	15.1	59.0	-43.9	23.4	41.9	-18.5
	5月	29.1	20.5	8.6	31.0	40.4	-9.4	32.2	29.1	3.1
	6月	43.5	21.9	21.6	25.4	47.2	-21.8	24.3	31.3	-7.0
	7月	49.1	15.5	33.6	23.6	43.7	-20.1	22.8	41.7	-18.9
	8月	51.1	13.1	38.0	30.9	28.8	2.1	24.1	38.5	-14.4
	9月	37.1	34.5	2.6	24.9	35.8	-10.9	29.9	40.7	-10.8
	10月	30.3	26.2	4.1	30.3	31.1	-0.8	39.6	33.0	6.6
	11月	67.3	13.6	53.7	11.1	61.4	-50.3	34.4	25.6	8.8
	12月	43.8	37.1	6.7	19.7	44.1	-24.4	30.5	38.4	-7.9
2016年	1月	27.3	51.5	-24.2	19.2	52.6	-33.4	22.8	52.5	-29.7
	2月	34.7	46.3	-11.6	22.5	49.0	-26.5	32.3	41.3	-9.0
	3月	33.3	37.6	-4.3	24.8	42.1	-17.3	37.6	31.8	5.8
	4月	30.2	50.2	-20.0	24.2	43.9	-19.7	34.2	35.7	-1.5
	5月	40.8	33.4	7.4	22.6	38.2	-11.6	35.7	35.3	0.4
	6月	26.3	60.2	-33.9	20.0	67.0	-47.0	24.8	50.5	-25.7
	7月	48.3	32.1	16.2	32.1	44.7	-12.6	44.2	29.8	14.4

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com